

# 「宗門寺院と戦争・平和問題」調査報告(その5)

## —「アジア・太平洋戦争」の金属供出1—

新田光子 (戦時被災等調査委員会委員  
「戦時調査室」調査担当)

渡辺慶子 (「戦時調査室」調査研究員)

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査につきまして、引き続き一般寺院への郵送調査にかかるご報告をさせていただきます。今号では、「アジア・太平洋戦争の金属供出1」と題して寺院梵鐘の供出についてとりあげたいと思います。

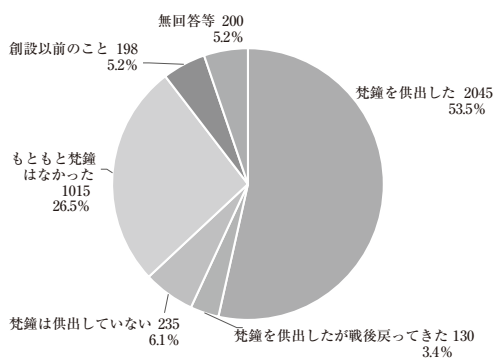
### 1、回答結果の概要

調査票でお尋ねしました(問19)「日中戦争のころから金属品回収がはじまり、昭和17年の金属回収令により、梵鐘や仏具などが強制的に供出させられるよ

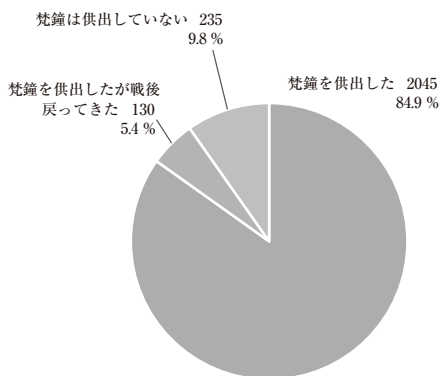
うになりました。貴寺院の梵鐘について状況をお教えください」についての回答結果が図表1です。大変興味深い結果になっていると思います。

この梵鐘供出に関する設問は、「もともと梵鐘はなかった」「寺院設立が戦後のことで、設問は)創設以前のこと」の選択肢を設けていましたので、それらと無回答を除いた、梵鐘が存在していた寺院のみの回答を示すものが、次の図表2です。

供出した寺院が9割を占め、当時梵鐘



図表1 梵鐘供出



図表2 梵鐘が存在した寺院の回答

があった寺院のほとんどが供出して、  
ことがわかります。そして、その供出し  
た梵鐘が「戦後戻ってきた」割合が5%  
あることもわかります。

## 2、寺院の梵鐘供出

アジア・太平洋戦争にともなう「梵鐘  
供出」は、寺院にとって非常に大きな出  
来事でした。

戦時中は戦意高揚のために、戦後にな  
ると戦時下の暮らしを語る題材として梵  
鐘の供出はくりかえし語られてきまし  
た。供出する梵鐘を囲んだ記念写真がた  
くさん残っていますので、ご覧になった  
ことがある方は多いのではないでしょう  
か。梵鐘を供出した寺院が戦後梵鐘再建  
に苦労したことは、寺院関係者の多くの  
人がご存じかと思えます。

このように、日本における戦争と寺院  
との関係を考えるうえで、「梵鐘供出」は  
大きなテーマになると思いますが、これ  
まで全国的な調査や研究はなされていま  
せんでした。梵鐘研究者、郷土史研究者、

文化財研究者による、いくつかの県での  
「梵鐘供出」に関する論文があるだけで  
す。全国でいつたいどれくらいの梵鐘が  
供出させられたかもわかっていません。  
一説では、7万カ寺以上の寺院の梵鐘の  
9割が消えたとも言われてきました。

今回の郵送調査では、梵鐘供出が「9  
割」という回答結果であり、ほとんどの  
寺院が供出したことが裏づけられ、その  
範囲も全国にわたっていることがわかり  
ました。大変貴重なデータだと思われま  
す。

「梵鐘供出」については、フォークロ  
ア（民間伝承）とも言える、語り伝えら  
れてきた話がいくつもあります。それを  
大きく分ければ、4つになります。

1つめは、梵鐘を出征兵士と同じよう  
に送り出した話です。今回いただいた写  
真・回答で、そうした供出寺院の当時の  
様子がわかりますので、後掲させていた  
だきます（資料1）。

送り出しの法要・「壮行儀式」は、各  
宗派とも本山の指導があったものと思わ

れます。本願寺派では、昭和17年12月、  
「仏具供出法要」を実施したという記録  
があります。

2つめは、梵鐘をいかに救ったかとい  
う話です。

歴史的に価値ある梵鐘については、知  
事から文部大臣に申請することによって  
供出から除外することができましたの  
で、地域の寺院の梵鐘を守るために県  
庁・市町村の職員、地元の有識者などが  
奔走したという話はかなり残されている  
ようです。梵鐘研究では、「供出梵鐘」  
に対して、「保存梵鐘」といいます。こ  
れに該当する事例は、後掲資料2に掲載  
させていただきました。

3つめは、供出した梵鐘の代わりをど  
うしたかという話です。

なくなつたままにしたという寺院が多  
かったと思いますが、石、ドラム缶、コ  
ンクリートの梵鐘をつるしたという事例  
があります。戦前は意図的になされたの  
かはわかりませんが、戦後は戦時体制へ  
の抵抗という意味合いをこめて、終戦記

念日前後には新聞などでよく取り上げられています。<sup>ま</sup>

「供出梵鐘」についてのフォークロアの4つめは、戻ってきた梵鐘の話です。

今回の調査で「梵鐘を供出したが戦後戻ってきた」との回答は、全回答中では130件(5・4%)ありました(図表2)。「道端に捨てられていたのを発見した」とか、「放置されていた梵鐘の銘から善意の人が連絡してくれた」とか、「精練工場に行って探し出してきた」とか、いろいろな話があります。

供出された梵鐘は、最寄りの駅に集められ、貨物列車で精練工場に送られました。たとえば、四日市市の石原産業には、静岡、愛知、三重、岐阜、福井、石川の各県から膨大な数の梵鐘が集められたことは有名です。敗戦とともに、そうしたシステムがストップしましたので駅や精練工場に野積みされたままになっていたわけです。そこからさまざまなエピソードが生まれたのでしょう。

郵送調査では、戦後の梵鐘再建につい

てもいろいろなお話をお聞きできました。

(問36)「戦後の厳しい状況の中で、貴寺院は寺院活動を進められたと思います。が、本格的な戦後再出発の感触が得られたのはいつごろでしょうか。」の問いかけとともに、「そのきっかけになった出来事、再出発の象徴となる出来事がありましたら、お教えください」と記述回答欄を設けましたところ、以下のようなご回答をいただきました。

「門信徒は総力をあげて梵鐘の復元を行った。終戦直後の昭和21年の混乱期にもかかわらず梵鐘の復元をひたすら願う門信徒の力が結集されたことは驚きである。」(岐阜教区寺院)

「梵鐘再鑄。昭和17年梵鐘を供出し、鐘楼には石をつるしていた。つるすために上部に穴を開けた石にその由来を刻し、鐘楼横に立ててある。梵鐘を戦争のために使うなどという過ちを二度と繰り返さないために。」(安芸教区寺院)

「戦前・戦中・戦後を通して年5回以上×3日間の法座活動の記録が残っており、寺史を閲覧しているも、いつが本格的な再出発か窺い知れない。唯々、当時の住職・門徒の念仏弘通・聞法求道の精神に感服するばかりである。強いて再出発を挙げるならば昭和17年10月25日より5日間勤修された梵鐘供出法要以来15年間響くことのなくなった梵鐘が、昭和32年5月15日再鑄され慶讃法要が村をあげて勤修されたことであろうか。」(山口教区寺院)

こうした「戦後再出発」のきっかけになったこととして記述された全回答1431ケースのうち、「梵鐘再鑄」「梵鐘再建」をあげた回答は、161ケースであり、11・3%を占めていました。

戦時中の梵鐘供出と戦後における梵鐘再建、いずれもが寺院にとって大変大きなできごとであったことでしょう。これからさらに、梵鐘についての詳しい調査ができればと思っております。



資料1 「赤いたすきがけ」梵鐘（四州教区西条組心光寺提供）

### 3、梵鐘供出の寺院事例

以下では、今回ご提供いただきました写真・資料のいくつかを紹介させていただきます。

#### ①「赤いたすきがけ」梵鐘

四州教区西条組心光寺からいただいた写真（資料1）には、次のような説明がそえられていました。

「撮影されたのは、昭和17年12月と聞いております。場所は国鉄伊予土居駅（現在のJR予讃線、伊予土居駅）駅舎横だそうです。当日は当時の関川村のすべてのお寺にある梵鐘が、それぞれ赤いたすきをかけられて大八車で伊予土居駅まで運ばれたそうです。

写真の「関川村 心光寺」と書かれた梵鐘が当院の梵鐘です。当時の住職が往生したばかりで台湾にいた住職の長男が帰省し、この写真前列右側には長男の子（当時6歳、当院前住職）が写っています。

この梵鐘が供出されたあとには、大きな石が吊られていたそうです。昭和39年に新しい梵鐘を迎えるまで、石が吊られていたそうです。」

#### ②「文化財」梵鐘の供出

滋賀教区野洲組覚明寺からご提供いただいた写真が、資料2です。

次のような説明が付されていました。

「30年以上前に铸造され、当寺の住



資料2 「文化財」梵鐘の供出（滋賀教区野洲組覚明寺提供）

職が一世一代をかけて迎えた梵鐘ということ、文化財価値の観点から供出することを免れる予定でしたが、周りの寺院が梵鐘を供出しているのに当寺だけが免除されるのはしびないということ、昭和16（1941）年12月8日に供出。戻ってはきませんでした。」



資料3 「寺院梵鐘受領調書」(備後教区中組蓮通寺提供)

③「寺院梵鐘受領調書」

備後教区中組蓮通寺からご提供いただきました「梵鐘受領調書」が、資料3です。梵鐘供出の証に「金属回収統制株式会社」から渡された1943(昭和18)年1月26日付の調書には、梵鐘の個数、重量、金額等記入されています。

注1 山形教区の阿弥陀寺では、梵鐘に「応召」と書いて壮行法要が執り行われました。その写真は、小形利吉「幻の梵鐘」高陽堂書店、1976年で紹介されています。

注2 神戸修「十五年戦争下の西本願寺教団―その思想と行動―(資料編)」同和教育振興会、1998年。

注3 「終戦70年」には、本願寺派寺院の「石の梵鐘」と「コンクリート製梵鐘」が紹介されました。『本願寺新報』2015年6月1日号。

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査は、戦争と平和という視点から各寺院の歴史的事実を記録にとどめるということを目的にしております。回答結果ならびに寺院事例紹介の次号では「アジア・太平洋戦争の金属供出2」と題して、寺院仏具供出をテーマにご報告いたします。

この調査のとりまとめにあたっては、2021年11月～12月に「宗門寺院と戦争・平和展」(仮称)開催を企画しております。宗門内外における情報共有の機

会とさせていただきます。戦時調査室に、寺院資料や戦前・戦中写真をぜひご提供ください。

資料のご提供先・お問い合わせ先

【戦時調査室】

開室時間：火・水・木 10時～12時、  
13時～16時(宗務所休日は除く)  
〒600-8349

京都市下京区堺町92

浄土真宗本願寺派総合研究所内

「戦時調査室」

Tel/075-354-5087

Fax/075-354-5360

Mail/senji-chousa@hongwanji.or.jp

新田光子(戦時被災等調査委員会委員)  
渡辺慶子(調査研究員)  
牛島悠紀(調査研究員)